（別添２－１）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

設　置　計　画　の　概　要

事　　項	記　　入　　欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ 設置者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ　ﾅｶﾞｻｷﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　長崎大学
フリガナ 大学の名称	ﾅｶﾞｻｷﾀﾞｲｶﾞｸﾀﾞｲｶﾞｸｲﾝ 長崎大学大学院 (Nagasaki University Graduate School)
新設学部等において養成する人材像	①養成する人材 本共同専攻では，放射線災害を含む複合災害において長期的にわたって健康被害に適切に対応できる人材を育成する。 〔医科学コース〕 国内外において，放射線災害を含む災害時の医療対応とクライシスコミュニケーション，災害発生前後における防災計画・避難所や仮説住宅での医療やこころのケア，リスクコミュニケーションなどをはじめとする種々の災害対応を，専門知識を基に行うことができる人材を育成する。 〔保健看護学コース〕 臨床放射線業務に精通するのみならず，放射線災害時の緊急放射線被ばく医療や放射線健康リスクコミュニケーションに対応できる看護師・保健師を育成する。 ②教育研究上の目的 以下の能力を習得させることを目的とする。 1.　医療機関，搬送機関，地方行政機関，関連する省庁において，複合広域災害時の災害サイクルに応じて，超急性期・急性期対応では調整能力とクライシスコミュニケーション能力を発揮して健康被害に対して適切に対応し，平時や復興期においては，住民の防災対策・健康影響，リスクコミュニケーション等に関する事業に対応できる。 2.　国内外の教育機関・自治体・公的機関において，後進の育成を行うことができる。 3.　博士課程を経て，関連する国際機関において災害時のクライシスコミュニケーションやリスクコミュニケーションに関連するプロジェクトを主導できる。 ③修了後の進路 〔医科学コース〕 地方自治体・公的機関職員，医療機関・保健機関，海外の保健省等担当省庁，教育研究機関，国際機関等 〔保健看護学コース〕 福島県下の市町村，原発立地の地方自治体，医療機関，教育研究機関，関係省庁，国際機関等
既設学部等において養成する人材像	【医歯薬学総合研究科】 〈保健学専攻〉 ①養成する人材 保健学専攻は，保健学専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに，専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養し，保健学の高度専門職業人の育成を行うことを目的とする。 ②教育研究上の目的 人の健康的な社会生活をサポートするスペシャリストを養成することを目的とする。また，様々な健康水準にある人々を対象に，健康回復・維持・増進のために，科学的根拠に基づいて効率的かつ効率よく保健医療活動を行うことができ，さらに幅広い視点から個人及び組織・社会全体にアプローチしていく実践力と専門職としての学問体系を自ら築く力をもつ人材を育成する。 ③修了後の進路 遺伝看護・遺伝カウンセリング，がん看護，放射線看護といった専門看護師や助産師，医療機関，保健機関，地方自治体等 【熱帯医学・グローバルヘルス研究科】 〈グローバルヘルス専攻〉 ①養成する人材 教育と研究と実践を一体化させ，世界の人々の健康と幸福に貢献し，グローバルヘルスに革新的な変革をもたらすことのできる人材を育成する。 ②教育研究上の目的 精深な専門的知識及び技能を授けることにより，熱帯医学・グローバルヘルス分野，特に地球規模の健康に対処する分野で活躍できる高度な知識及び実践的技能を有する人材を養成し，もって国際社会の健全な発展に資することを目的とする。 ③修了後の進路 医療機関，NGO，NPO，国際機関，博士課程進学等
新設学部等において取得可能な資格	なし
既設学部等において取得可能な資格	なし

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等 学位又は称号	授与する学位等 学位又は学科の分野	開設時期	専任教員 異動元	専任教員 助教以上	専任教員 うち教授
	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 [Graduate School of Biomedical Sciences]	災害・被ばく医療科学共同専攻 [Division of Disaster and Radiation Medical Sciences]	2	10	－	20	修士(医科学) 修士(看護学)	医学関係 保健衛生学関係 (看護学関係)	平成28年4月	保健学専攻	3	2
										原爆後障害医療研究所	7	6
										計	10	8
	福島県立医科大学大学院医学研究科 [Graduate School of Medicine]			10	－	20				医科学専攻	6	6
										看護学専攻	4	2
										計	10	8

既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等 学位又は称号	授与する学位等 学位又は学科の分野	開設時期	専任教員 異動先	専任教員 助教以上	専任教員 うち教授
	医歯薬学総合研究科	保健学専攻 (修士課程)	2	20	―	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	保健衛生学関係 (看護学関係) (リハビリテーション関係)	平成18年4月	災害・被ばく医療科学共同専攻	3	2
										保健学専攻	33	19
										退職	1	0
										計	37	21
	熱帯医学・グローバルヘルス研究科	グローバルヘルス専攻 (修士課程)	2	27	―	42	修士(熱帯医学) 修士(公衆衛生学) 修士(医科学)	医学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	平成27年4月	グローバルヘルス専攻	31	27
										新規採用	4	3
										計	35	30

【備考欄】

医歯薬学総合研究科
　先進予防医学共同専攻　　(　10)　　(平成27年5月事前伺い)
　医療科学専攻　〔定員減〕　(△ 2)
　放射線医療科学専攻　〔定員減〕　(△ 3)

災害・被ばく医療科学共同専攻の構成大学
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科，福島県立医科大学大学院医学研究科

大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。具体的には，時間割設定に当たり，休日，夜間及び集中講義を最大限に活用するほか，学生の勤務・生活形態を考慮した履修指導を行う。

（別添２－２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（災害・被ばく医療科学共同専攻　医科学コース）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目	研究方法特論	1前	両大学	2			○			1					兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
	ﾘｽｸｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学	1前	長崎大学	1			○			2					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
	基礎放射線医科学*3	1前	両大学	2			○			2	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部) ※実習
	災害看護学概論	1前	福島県立医科大学	1			○			1		1				共同
	救急医学概論	1前	福島県立医科大学	1			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	災害医学概論	1前	福島県立医科大学	1			○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	被ばく影響学	1後	長崎大学		2		○			3	1				兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	緊急被ばく医療概論	1前	福島県立医科大学		2		○			1						
	ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ概論	1後	長崎大学		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	ﾘｽｸｱｾｽﾒﾝﾄ概論	1前	長崎大学		2		○			3					兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	疫学	1後	福島県立医科大学		2		○			1						
	小計（11科目）	－		8	10	0	－			10	1	1	0	0	兼22	
専門科目	放射線防護学	1後	両大学	2			○			2						
	社会医学特論	1後	長崎大学	2			○			3					兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	国際保健学特論*1	1後	長崎大学		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	災害こころの医学*1	1後	福島県立医科大学		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	災害医学特論*1	1後	福島県立医科大学		2		○			1					兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	ﾘｽｸ管理学特論*1	1後	長崎大学		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	国際ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ管理学*2	1前・後	長崎大学		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	保健医療社会学特論*2	1前・後	長崎大学		2		○			1					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ医療教育学*2	1後	福島県立医科大学		2		○								兼1	
	災害地域ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学*2	1後	福島県立医科大学		2		○			2					兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
	救急医学特論*2	1後	福島県立医科大学		2		○			1						
	地域医療学*2	1後	福島県立医科大学		2		○								兼1	
	小計（12科目）	－		4	20	0	－			10	0	0	0	0	兼20	
専門実習	長崎大川内村実習	2前	長崎大学		2				○	1	1				兼1	集中
	長崎大原爆被爆者医療実習	2前	長崎大学		2				○	2	1					集中
	長崎大放射線看護学実習	2前	長崎大学		2				○	1	1					集中
	福島医大救急医学実習	1～2	福島県立医科大学		2				○						兼1	集中
	福島医大放射線災害医療実習	1～2	福島県立医科大学		2				○						兼1	集中
	小計（5科目）	－		0	10	0	－			2	1	0	0	0	兼3	
課題研究	課題研究	2後	両大学	6						16	2					
	小計（１科目）	－		6	0	0	－			16	2	0	0	0		
自由科目	医学概論	1前	両大学			2	○			2					兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
	小計（1科目）	－		0	0	2	－			2	0	0	0	0	兼8	
合計（30科目）		－		18	40	2	－			16	2	1	0	0	兼44	

学位又は称号	修士（医科学）	学位又は学科の分野	医学関係

（別添２－２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（災害・被ばく医療科学共同専攻　保健看護学コース）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目	研究方法特論	1前	両大学	2			○			1					兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
	ﾘｽｸｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学	1前	長崎大学	1			○			2					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
	基礎放射線医科学*3	1前	両大学	2			○			2	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部) ※実習
	災害看護学概論	1前	福島県立医科大学	1			○			1		1				共同
	救急医学概論	1前	福島県立医科大学	1			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	災害医学概論	1前	福島県立医科大学	1			○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	被ばく影響学	1後	長崎大学		2		○			3	1				兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	緊急被ばく医療概論	1前	福島県立医科大学		2		○			1						
	ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ概論	1後	長崎大学		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	ﾘｽｸｱｾｽﾒﾝﾄ概論	1前	長崎大学		2		○			3					兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	疫学	1後	福島県立医科大学		2		○			1						
	小計（11科目）	－		8	10	0	－			10	1	1	0	0	兼22	
専門科目	放射線防護学	1後	両大学	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	放射線看護学	1後	長崎大学	2			○			2	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	災害公衆衛生看護学*1	1後	福島県立医科大学		2		○			1		1				共同
	臨床放射線看護学*1	1後	長崎大学		2		○			1	1				兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	放射線ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ看護学*1	1後	長崎大学		2		○			2	1				兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
	国際被ばく公衆衛生看護学*1	1後	福島県立医科大学		2		○			1						
	国際ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ管理学*2	1前・後	長崎大学		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	保健医療社会学特論*2	1前・後	長崎大学		2		○			1					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	看護倫理*2	1前	福島県立医科大学		2		○								兼1	
	看護理論*2	1前	両大学		2		○								兼2	
	看護教育論*2	1前	両大学		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	看護管理学特論*2	1前・後	両大学		2		○			1					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ特論*2	1前・後	両大学		2		○			1					兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	国際保健学特論*2	1後	長崎大学		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	小計（12科目）	－		4	24	0	－			8	1	1	0	0	兼18	
専門実習	長崎大川内村実習	2前	長崎大学		2				○	1	1				兼1	集中
	長崎大原爆被爆者医療実習	2前	長崎大学		2				○	2	1					集中
	長崎大放射線看護学実習	2前	長崎大学		2				○	1	1					集中
	福島医大救急医学実習	1～2	福島県立医科大学		2				○						兼1	集中
	福島医大放射線災害医療実習	1～2	福島県立医科大学		2				○						兼1	集中
	小計（5科目）	－		0	10	0	－			2	1	1	0	0	兼3	
課題研究	課題研究	2後	両大学	6						16	2					
	小計（１科目）	－		6	0	0	－			16	2	0	0	0		
自由科目	医学概論	1前	両大学			2	○			2					兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
	小計（1科目）	－		0	0	2	－			2	0	0	0	0	兼8	
合計（30科目）		－		18	44	0	－			16	2	2	0	0	兼46	

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

設置の趣旨・必要性

Ⅰ　設置の趣旨・必要性

（１）設置の趣旨

2011年3月の東日本大震災・津波とそれに引き続く東京電力福島第一原子力発電所事故による未曾有の複合型広域災害を契機に，発災期から復興期において長期的にわたって健康被害に適切に対応できる人材が絶対的に不足していることが明らかとなった。

今回の経験を基にした医療分野における検証報告を総括すると，DMAT等による被災地医療機関におけるトリアージと，避難所における急性疾患の発症予防という観点では，これまでの災害医療の取組が奏功した部分もある。一方で，放射線汚染スクリーニング，病院入院患者・長期療養型施設入所者の全入院・入所者避難と医療搬送，広範な避難地域指定時の医療・保健体制維持という新たな環境リスク因子が加わった時のコミュニケーションの在り方，他のリスク因子との整合調整に当たる人材等が不足していた。また，日本における初めての大規模放射線災害となった福島第一原子力発電所事故において，発災直後から復興期におけるク ライシスコミュニケーション，リスクコミュニケーションにあたる人材の不足は深刻であった。さらに，日本の近未来における大規模災害を想定しても，首都直下・南海トラフ地震等では原子力災害や放射線災害を含む同様の複合型広域災害発生が高確率で想定されており，対策が急がれる。

このような現状を鑑み，複合型広域災害において，発災前における防止策や啓発等に加えて，発災期から復興期における健康影響に適切に対応して被害の軽減と復興の促進を図る方策を，医学のみならず保健学や看護学といった多面的観点から研究し，特に原子力災害や放射線テロ等による放射線被ばくの健康影響への対応に重点を置いた学際的学問領域である『災害・被ばく医療科学』領域における教育・人材育成を推進することが急務であるとの発想に至った。

（２）長崎大学と福島県立医科大学との共同教育課程である理由

上記のような教育は，災害医療科学に放射線教育を加えて初めて達成できるものであり，この目的達成のために，被ばく医療学・放射線健康リスク制御学で実績を持つ長崎大学と，以前から災害医療分野での実績を有し，かつ東日本大震災という貴重な経験・教育用フィールドを有する福島県立医科大学がそれぞれ独自の実績と強みを持ち寄り，かつ弱みを補完して「災害・被ばく医療科学共同専攻」を設置する。具体的に，両大学での共同教育課程である理由は以下のとおりである。

１．　長崎における原爆被爆と福島における原子力災害を含む大規模自然災害を世界の教訓として，「地球と人間の健康と安全」に資する人材の育成を行うために，両大学の連携に基づく共同大学院の設置が，国際的に見ても極めて大きなインパクトを持つこと。
２．　長崎大学がこれまで行ってきたグローバル人材育成を踏まえた，アジアへの本分野の人材輩出は，今後の日本にとっても極めて重要であること。また，その人材育成を考える上で，災害医療分野で長年の実績を有し，原子力災害を経験した福島県立医科大学の教育フィールドにおける共修が極めて重要であること。
３．　福島だからこそ育成可能な，自然災害に加えて原子力災害にも精通した災害医学分野の専門家育成が，福島，日本のみならず，世界的にも急務であること。
４．　長崎大学と福島県立医科大学はこれまで放射線看護教育に力を注いできており，福島の発災期から復興期において大きく貢献していること。更には，長崎大学が福島県川内村に平成25年4月に復興推進拠点を設置し，教員(助教)が常駐することによって専門家と行政，住民が一体となった復興モデルケースを構築しながら，教育拠点として学生の実習等も活発に行っていること。福島県立医科大学では，行政と一体になり，震災以降県内6地域に新たに設置されたこころのケアセンターへの，スタッフの派遣や支援を継続しているが，大学院教育拠点としても充実していくと考えられること。
５．　今後，福島においては長期的・多角的・学際的視野に立った，地域の復興・再生における放射線医療・看護分野の人材育成が急務であり，長崎大学と福島県立医科大学の共同大学院設置は，その目的を達成するために最も効果的であること。
６．　これらの人材を育成する体制が機能すれば，国内外において次の複合災害の発災期から復興期に役立つ人材を供給できると考えられること。
７．　一方で，救急医学や災害医学といった長崎大学において必ずしも十分に教育することができない分野，あるいは国際医療社会学や国際プロジェクト管理学といった福島県立医科大学において必ずしも十分に教育することができない分野を相互に補完することが可能になること。

（３）「災害・被ばく医療科学共同専攻」の特色

新設する「災害・被ばく医療科学共同専攻」は，医科学コース（修士（医科学））と保健看護学コース（修士（看護学））からなる。

２つのコースは，大規模災害時の健康被害に対応できる医療系及び非医療系の人材を育成しようとするものであるが，その活動はそれぞれ重複しており，実際の発災時にはそれぞれが共通の知識の下で協働する場面が数多くあると考えられる。実際に学ぶ学問分野としても，疫学や放射線科学，放射線防護学といった基礎科学分野からリスクコミュニケーション学，災害・救急医学といた臨床医科学分野の多く学問領域が重複しており，実際の科目においても「災害医学概論」や「リスクコミュニケーション学」，「基礎放射線医科学」をはじめとして多くの共通科目があると考えられ，それぞれが単独で専攻組織として構成される領域というよりは，相互に関連・補完される統合領域であり，領域としての同質性があると考えられ，２つの専攻ではなく，１つの専攻分野としての統合領域「災害・被ばく医療科学 」を人材育成の対象とするものである。

その一方で，学位の授与においては，専門性の観点から，医科学コースは消防・警察等職員，国内外において放射線技師，保健医療に従事している行政職員，あるいは将来このような職業に従事する希望を持つ者等を入学者として想定し，幅広く放射線保健・災害医療学に精通した人材を育成することから，修士（医科学）の学位を授与し，一方で，保健看護学コースは看護師・保健師を入学者として想定し，放射線リスク管理に精通した人材を育成することから，修士（看護学）の学位を授与するに相応しい独立性があると考えられる。

（４）養成する人材像
本共同専攻では，放射線災害を含む複合災害において長期的にわたって健康被害に適切に対応できる人材を育成する。

ⅰ．医科学コース
医科学コースは，「国内外において放射線災害を含む災害時の医療対応とクライシスコミュニケーション，災害発生前後における防災計画・避難所や仮設住宅での医療やこころのケア，リスクコミュニケーションなどをはじめとする種々の災害対応を，専門知識を基に行うことができる人材の育成」を目的とする。

ⅱ．保健看護学コース
保健学コースは，「臨床放射線科業務に精通するのみならず，放射線災害時の緊急放射線被ばく医療や放射線健康リスクコミュニケーションに対応できる看護師・保健師の育成」を目的とする。

Ⅱ　教育課程編成の考え方・特色
（１）　教育課程編成の基本的な考え方
本共同専攻は，長崎大学においては医歯薬学総合研究科に設置し，福島県立医科大学においては医学研究科に設置するものとする。
教育課程は，基礎科目，専門科目，専門実習，課題研究及び自由科目により構成される。基礎科目において，２コース共修の必修科目を設け「災害・被ばく医療科学」に必要な幅広い基礎的知識を修得させるとともに，専門科目及び課題研究により，各コースにおける専門性を修得させる。加えて，専門実習においても長崎大川内村実習，長崎大原爆被爆者医療実習，長崎大放射線看護学実習，福島医大救急医学実習，福島医大放射線災害医療実習を２コースの学生が共修することによって，専門性と学際性のバランスの取れた教育を行う。共同大学院においては，学生が参画大学から10単位以上履修する必要があるため，遠隔講義や講義のビデオ受講が可能な教育体制を整備するほか，外国人留学生及び希望する日本人学生には英語による教育を提供するものとする。

（２）　教育課程及び科目区分の編成
ア　基礎科目（計12単位以上）
基礎科目は，災害・被ばく医療科学を修得するに当たって医科学コース，保健看護学コースの学生が共通して修得する科目であり，必修科目は放射線災害時および放射線被ばく医療に実践的に必要な，放射線の基礎知識と技術を身につける基礎放射線医科学（２単位）と救急医療体制，救急疾患，救急疾患への対応の基礎を学ぶための救急医学概論（１単位），災害医療の歴史，災害医療体制，災害時における基本的な初期医療対応について学ぶための災害医学概論（１単位），災害の歴史及び災害時の実　践活動や研究成果から災害看護の基本的知識・技術を学ぶための災害看護学概論（１単位），リスクコミュニケーションの実践的な能力を身につけるリスクコミュニケーション学（１単位），研究テーマの決め方・記載方法・公表の仕方・プレゼンテーションの方法を身に付ける研究方法特論（２単位）と選択科目であり，疫学の理論と手法を学び，それを研究で活用する能力を身に付けるための疫学（２単位），リスクアセスメントについての実践的な能力を身に付けるリスクアセスメント概論（２単位），ライフサイクルにおける精神状態の理論的理解と臨床的理解を深めることを目的とするメンタルヘルス概論（２単位），放射性物質への対応からCBRNE災害への医療対応に広く応用できる能力を身に付けるための緊急被ばく医療概論（２単位），放射線被ばくの人体影響について理解する被ばく影響学（２単位），から構成される。
必修科目である基礎放射線医科学，救急医学概論，災害医学概論，災害看護学概論，リスクコミュニケーション学，研究方法特論はいずれも災害・被ばく医療科学の根幹となる知識の修得に必須な科目であり，全ての学生が履修するものとする。
このうち基礎放射線医科学は長崎大学と福島県立医科大学の教員がオムニバスの形で分担して開講し，救急医学概論，災害医学概論，災害看護学概論は福島県立医科大学が，リスクコミュニケーション学は長崎大学が開講する。
選択科目は，災害・被ばく医療科学を学ぶに当たって必要な科目に加えて，実習や課題研究を行うに当たって必要な知識を修得するために必要な科目であり，そのうちリスクアセスメント概論と被ばく影響学，メンタルヘルス概論は長崎大学が，疫学と緊急被ばく医療概論は福島県立医科大学が開講する。
なお，基礎科目では，医科学コース，保健看護学コースともに必修科目８単位，選択科目４単位以上を履修要件とする。

イ　専門科目（計12単位以上）
専門科目は，医科学コース，保健看護学コースの学生がそれぞれの専門的知識を修得する科目である。

ⅰ）医科学コース
医科学コースにおける専門科目は，必修科目であり，ICRPの勧告や原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）報告，IAEA技術文書などをもとに，計画被ばく，現存被ばく，緊急被ばくに対する防護の在り方について具体的な事例の提示も含めながら概説する放射線防護学（２単位，両コース共通），衛生学・公衆衛生学分野における現在の動向について，幅広い知識の習得を目的とする社会医学特論（２単位）と選択必修科目であり，リスク管理のために必要な技術とその応用についての知識の習得を目的とするリスク管理学特論（２単位），国際保健学領域における現在の動向についての幅広い知識の習得を目的とする国際保健学特論（２単位），「災害医学概論」をより専門的に，さらに広範な概念から俯瞰する災害医学特論（２単位），自然災害や人為災害が発生した時に生じる被災者の精神保健上の問題を理解するための災害こころの医学（２単位），加えて，選択科目であり，国際的な保健システム強化の在り方についての理解を深めるための保健医療社会学特論（２単位），自治体，政府，国際機関におけるプロジェクト管理，実施の実際についての知識を習得することを目的とする国際プロジェクト管理学（２単位），シミュレーション教育の理論を理解し，個人レベルのテクニカルスキルとチームレベルのノンテクニカルスキルの学習を実践できるようになることを目標とするシミュレーション医療教育学（２単位），地域社会の現状を全体として理解し，実際のヘルスプロモーション活動を企画し構築・展開ができる能力を獲得するための災害地域ヘルスプロモーション学（２単位），臓器毎に評価したパラメーターをもとに，蘇生と生命維持について学ぶための救急医学特論（２単位），グローバルな視点で日本の地域医療の再生・改革を考えることができる基盤を形成するための地域医療学（２単位）から構成される。

必修科目である放射線防護学と社会医学特論は，医科学分野の専門的知識修得に必要な科目群であり，同時にその後の実習，課題研究の遂行の基盤となるものである。

その上で，選択必修科目であるリスク管理学特論や国際保健学特論といった科目を履修させることで，海外の保健省等担当省庁や国際機関等におけるガイドライン策定，プロジェクト形成等を推進するための専門的知識を教授し，災害医学特論，災害こころの医学といった科目を履修することで，地方自治体や公的機関，医療機関，保健機関において，災害医学の専門家として対応し，更には，後継者育成を行うための知識を修得させる。

さらに，選択科目である地域医療学を履修することで，地域医療の特性に目を配りながら災害医療，被ばく医療を推進できる人材の育成を図るほか，救急医学特論，シミュレーション医療教育学，災害地域ヘルスプロモーション学といった科目を履修することで，災害医学分野における幅広い知識を修得させ，保健医療社会学特論や国際プロジェクト管理学といった科目を履修することで，国際保健学分野におけるより幅広い知識を修得させる。以上のように本コースは，災害分野の専門知識を修得するために必要な科目と，被ばく医療学分野の知識を習得するために必要な科目をバランスよく履修することによって，修士（医科学）を授与するに相応しい教育課程となっている。

ⅱ）保健看護学コース

保健看護学コースにおける専門科目は，必修科目である放射線防護学（２単位，両コース共通），放射線診断や被ばく医療の対象者の健康問題をアセスメント，診断するための知識と技術，理論を学ぶための放射線看護学（２単位）と選択必修科目であり，放射線災害発生時の国際的公衆衛生看護活動を考察できる能力を取得するための国際被ばく公衆衛生看護学（２単位），災害時の公衆衛生看護活動に必要な知識・技術を学ぶための災害公衆衛生看護学（２単位），ヘルスプロモーションの考えに基づいて効果的な看護活動が展開でき，評価できる能力を養うことを目的とする放射線ヘルスプロモーション看護学（２単位），放射線診療及び治療についての目的と効果を理解し，放射線についての正しい知識と看護ケアに必要なアセスメント技術，マネジメント技術を修得するための臨床放射線看護学（２単位），加えて選択科目である看護におけるコンサルテーションの実際について学ぶコンサルテーション特論（２単位），質の高い看護サービスを提供するために必要な看護のマネジメント戦略を学ぶ看護管理学特論（２単位），看護とは何かを学問的に解いた教育内容を社会に提示し，学生や看護職者の看護実践能力を育むための看護教育論（２単位），卓越した看護実践の基盤となる看護の諸理論について理解を深め，実践・教育・研究活動へ活用することを学ぶ看護理論（２単位），看護実践･研究における倫理的規範について学ぶための看護倫理（２単位），保健医療社会学特論（２単位），国際プロジェクト管理学（２単位），国際保健学特論（２単位）から構成される。

必修科目である放射線防護学と放射線看護学は，保健看護学分野の専門的知識修得に必要な科目群であり，同時にその後の実習，課題研究の遂行の基盤となるものである。

その上で，選択必修科目である国際被ばく公衆衛生看護学，災害公衆衛生看護学，放射線ヘルスプロモーション看護学，臨床放射線看護学といった科目を履修させることで，地方自治体のみならず関係省庁，更には，国際機関等における放射線健康リスクコミュニケーション，災害リスクコミュニケーションについての事業の実施を行うための専門的知識を教授する。

さらに，選択科目としてコンサルテーション特論，看護管理学特論，看護教育論，看護理論，看護倫理や医科学コースの専門科目でもある保健医療社会学特論，国際プロジェクト管理学，国際保健学特論を履修させることで医療機関における看護師として，あるいは，国内外の教育研究機関における後進の人材育成を行うために必要な幅広い知識を修得させる。以上のように本コースは，看護学分野の専門知識を習得するために必要な科目と，被ばく医療学分野の知識を習得するために必要な科目をバランスよく履修することによって，修士（看護学）を授与するに相応しい教育課程となっている。

ウ　専門実習（計４単位以上）

専門実習は，長崎大学と福島県立医科大学が持つ特色ある教育研究フィールドを活用して行うもので，長崎大学における長崎大原爆被爆者医療実習（２単位），長崎大学川内村復興推進拠点における長崎大川内村実習（２単位），長崎大放射線看護学実習（２単位），福島県立医科大学における福島医大救急医学実習（２単位），福島医大放射線災害医療実習（２単位）のうち４単位を取得するものとする。

長崎大原爆被爆者医療実習では，原爆検診，原爆被爆者健康講話等を通じた被ばく医療や放射線健康リスクコミュニケーションの実際を，長崎大川内村実習では地域における放射性物質測定から放射線健康リスクコミュニケーションの実際を，長崎大放射線看護学実習では放射線防護及び放射線リスクコミュニケーションの専門知識を基盤に放射線診療を受ける患者，家族，被検者への高度看護実践を，そして福島医大救急医学実習では最先端の救急医学やチーム医療の実際について学び，福島医大放射線災害医療実習では緊急被ばく医療実習や福島県民健康調査への参加を通じた放射線被災者の急性期から慢性期における健康管理について学ぶものとする。なお，既述のように専門実習は医科学コース，保健看護学コースの学生が共修するものとする。

また，実習にあたっては事前に実習の内容を十分に説明し，各実習機関から事前学習課題を提示してもらうものとする。なお，川内村復興推進拠点は原発から20～30 km圏内であるが，早期から帰村が実現したことで分かるように，放射線量が非常に低い地域であり，さらに既に森林区域を除く村全体の除染も完了しており，放射線による健康被害の懸念は不要である。しかし，不安を感じる学生に配慮して現在の汚染状況の説明，線量計の使用法説明など実習前教育を行う。

エ　課題研究（６単位）

課題研究では，上記の履修によって得られた専門的知識と，フィールド等における実習において得られた実践能力を基に，各学生が指導教員と協議の上で課題研究のテーマを設定し，学位論文（修士）の作成に向けた研究を行う。具体的には，「災害時における職域ごとのリスク認知評価」，「放射線災害時における住民のメンタルヘルスケア方法論」，「医療被ばくについての国際比較（発展途上国と先進国の差異）」等を想定している。学位論文は，日本語又は英語で執筆するものとする。

オ　自由科目

医療系非履修者は，１年次前期に自由科目として医科学についての基礎・臨床分野の知識を概説する「医学概論（２単位）」を履修し，医科学に関する基礎的な知識を身に付けるものとする。

（３） 教育課程の特色

本専攻における教育課程の特色は，新たな統合領域である「災害・被ばく医療科学」分野における幅広い人材の育成を行うことにある。すなわち，大規模災害時の健康被害に対応できる人材のうち医師以外の医療系及び非医療系人材を育成するため，医科学コースでは消防・警察職員，放射線技師や保健医療に従事している行政職員，保健看護学コースでは保健師，看護師といった，多様なバックグランドを持つ国内外の学生に対して門戸を拡大し，これらの学生が融合して教育を受ける機会を設ける。

ア 自由科目（医学概論）の設置

本研究科には，様々なバックグラウンドを有する学生が入学することが想定される。専攻として一定の教育水準を担保させるため，医療系非履修者は自由科目として医学概論を修得するものとする。

学生に対する指導においては，英語と日本語により個別指導を十分に行うものとする。

イ 国際機関専門官経験者（外国人）の招聘

世界保健機関（WHO）や国際原子力機関（IAEA），国際放射線防護委員会（ICRP）といった国際機関において被ばく医療やリスクコミュニケーションに関するプロジェクトに携わった経験を持つ外国人専門家１名を教員として配置予定し，本学担当教員と協力して教育に当たる。

これによって英語による教育の実質化を行い，また国際機関勤務経験者が「国際プロジェクト管理学」や「国際医療社会学特論」，「放射線防護学」といった実践的な講義を行うことによって，学生の実践力を高めるものとする。

ウ コース横断型の共通科目，専門実習

学生は１年次に共通科目として「基礎放射線医科学」，「救急医学概論」，「災害医学概論」，「災害看護学概論」，「リスクコミュニケーション学」，「研究方法特論」を全学生が必修科目としてコース横断的に履修する。上記に記したように，これらの科目はいずれも災害・被ばく医療科学の根幹となる知識の修得に必須な科目であり，全ての学生が履修することで災害・被ばく医療科学の共通プラットホームともいうべき知識を身に付ける。また，同じく共通科目として４単位の選択科目を全学生が履修することにより，後述する専門実習や課題研究を行うに当たって必要な知識を修得する。

さらに，専門科目でコースごとに分かれて履修していた学生が，コース横断型の「専門実習」を選択必修科目として履修する。福島県立医科大学や長崎大学，更には長崎大学・川内村復興推進拠点において学生が実習を行うことで，多種多様な専門家とコミュニケーションを図ることができるとともに，災害・被ばく医療科学を体系的に鳥瞰できる能力を育成する。

エ TV会議システムを用いた講義

学生が本籍を置く大学へ通学し，授業時間割に基づいた，リアルタイムでの双方向性，学生参加型の授業を行う。オンデマンドによる学習ではなく，TV会議システムを用いて通常の集合型対面授業のスタイルを極力維持する。

オ 実習に係る学生負担

実習参加に係る交通費及び宿泊費は，学生の実費負担を原則とする。

ただし，福島で行われる３つの実習（長崎大川内村実習，福島医大救急医学実習及び福島医大放射線災害医療実習）については，連続して行うことにより，長崎から参加する学生の交通費の負担を軽減するように配慮している。

また，川内村実習においては，川内村に置く長崎大学の宿泊施設を利用することにより，学生の宿泊料負担を軽減することとしている。

一方，長崎で行う長崎大原爆被爆者医療実習に福島から参加する学生については，本共同専攻を置く長崎大学坂本キャンパスにあるゲストハウス等を利用することにより宿泊費の軽減が可能となる。

（４） 履修順序の考え方

医科学コース，保健看護学コースとも，１年次に共通科目，専門科目を履修し，研究や実践に必要な専門性を修得する。２年次で専門実習を履修したのちに課題研究を履修する。

具体的には，２コース共通で，災害・被ばく医療科学に必要な幅広い基礎的知識と学際性を修得するため，共通科目を履修し，専門的実践・研究能力を修得するため，専門科目を履修する。その上で，得られた専門性を実践するために専門実習を行い，講義，実習で得られた知識と実践能力を基にした課題研究を行い，修士論文を作成することで，バランスの良い能力を修得するものとする。

以上のような履修順序により，教育課程を体系的に編成している。

（５） 研究指導の方法及び指導体制

教育面では，きめの細かい個別指導，研究面では早期からの複数指導教員体制（主指導教員と副指導教員）の確立と個人指導を行うことにより，修士論文を完成させる。この際，主指導教員と副指導教員は，1人の学生について，両大学の専任教員が最低1名ずつ（合わせて最低2名）あたるものとする。この2名以上の研究指導教員が直接対面或いはテレビ会議を利用して定期的に進捗状況をチェックし，かつ1年終了時に中間発表会を行うことによって，学生の研究テーマ（例；「災害時における職域ごとのリスク認知評価」，「放射線災害時における住民のメンタルヘルスケア方法論」，「医療被ばくについての国際比較（発展途上国と先進国の差異）」等）や研究計画の策定，研究遂行，論文作成等を綿密な研究指導のもとで行うことができる。

<table>
<tr><th>卒　業　要　件　及　び　履　修　方　法</th><th>開設大学</th><th>開設単位数（必修）</th><th colspan="2">授業期間等</th></tr>
<tr><td rowspan="3">医科学コース及び保健看護学コースの卒業要件及び履修方法は以下のとおり。

標準修業年限である２年以上在学し，授業科目の中から３４単位以上を修得，かつ必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査及び最終試験に合格することを要件とする。

修了要件３４単位のうち，各科目区分から以下の単位を修得するとともに，それぞれの構成大学において１０単位以上を修得すること。

○基礎科目：必修科目８単位，選択科目４単位以上
○専門科目：必修科目４単位，選択必修科目（*1の科目）４単位，選択科目（*2の科目）を４単位以上
○専門実習：４単位以上
○課題研究：６単位

そのほか，非医療系履修者は自由科目（２単位）を必修とする。

*3 基礎放射線医科学は，両大学の教員が１つの科目を分担し，オムニバス形式の授業を行う科目であり，各大学から１単位ずつ修得したものとみなす。</td><td>長崎大学</td><td>50(16)</td><td>１学年の学期区分</td><td>２学期</td></tr>
<tr><td>福島県立医科大学</td><td>50(14)</td><td>１学期の授業期間</td><td>１５週</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>１時限の授業時間</td><td>９０分</td></tr>
</table>

（別添２－２）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

医歯薬学総合研究科　保健学専攻（修士課程）　既設

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目		生体情報科学特論	1後		2		○			3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		研究方法特論	1前		2		○			1					
		保健学研究の統計的理論と実践	1前		2		○								
		保健統計学特論	1前		2		○								
		保健医療社会学特論	1前		2		○								
		グローバルヘルス特論	1前		2		○								
		国際協力特論	1前		2		○								
		生体機能解析・制御学特論	1前		2		○								
		臨床免疫学特論	1前		2		○			1					
		医療情報特論	1前		2		○				1				
		メンタルヘルス特論	1後		2		○			1					
		コンサルテーション特論	1後		2		○			1					
		看護管理学特論	1後		2		○			1					
		看護倫理	1後		2		○			1					
		看護理論	1前		2		○			1					
		看護教育論	1前		2		○			1					
		小計（16科目）		0	32	0		－		11	1	0	0	0	
分野専門科目	看護実践科学分野	基礎看護学特論	1前		2		○			1					
		基礎看護学セミナー	1後		2		○			1					
		成人看護学特論	1前		2		○			1					
		成人看護学セミナー	1後		2		○			1					
		老年看護学特論	1前		2		○								
		老年看護学セミナー	1後		2		○								
		精神看護学特論	1前		2		○			1					
		精神看護学セミナー	1後		2		○			1					
		看護実践科学分野特別研究	2通		10		○			1					
		小計（9科目）		0	26	0		－		7	0	0	0	0	
	公衆衛生看護学分野	公衆衛生看護学特論	1前		2		○				1				
		公衆衛生看護学セミナー	1前		2		○			3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ヘルスプロモーション特論	1後		2		○			1					
		公衆衛生看護学分野特別研究	2		10		○			2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（4科目）		0	16	0		－		6	2	0	0	0	
	リプロダクティブヘルス分野	リプロダクティブヘルス特論	1前		2		○			1					
		リプロダクティブヘルスセミナー	1後		2		○			1					
		遺伝看護セミナー	1通		2		○				1				
		周産期救急ケア演習	2前		2		○			1					
		地域・国際助産学	1後		2		○			1					
		地域助産学演習	2前		2		○			1					
		国際助産学演習	2前		2		○			1					
		リプロダクティブヘルス分野特別研究	2通		10		○			1					
		小計（8科目）		0	24	0		－		7	1	0	0	0	

分野専門科目	理学療法学分野	呼吸器障害理学療法学特論	1後		2		○			1						
		発達障害理学療法学特論	1前		2		○				1					
		運動障害理学療法学特論	1前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域リハビリテーション学特論	1前		2		○			1						
		理学療法学セミナー	1後		2		○			5	4					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		理学療法学特別研究	2通		10		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（6科目）		0	20	0	―			9	8	0	0	0		
	作業療法学分野	身体障害作業療法学特論	1前		2		○			1						
		生活障害作業療法学特論	1前		2		○			1						
		精神障害作業療法学特論	1前		2		○			1						
		基礎作業療法学特論	1前		2		○				1					
		発達障害作業療法学特論	1前		2		○				1					
		作業療法学セミナー	1後		2		○			4	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		作業療法学特別研究	2通		10		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（7科目）	―	0	22	0	―			9	7	0	0	0		―
合計（50科目）			―		140		―			49	19	0	0	0		―

学位又は称号	修士（看護学） 修士（理学療法学） 修士（作業療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

（別添２－２）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（事　前　伺　い）

熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻　熱帯医学コース（修士課程）　既設

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目		基礎人間生物学	1秋			1	○			1						
		熱帯医学基礎Ⅰ	1秋			2	○			7						オムニバス
		熱帯医学基礎Ⅱ	1秋	2			○			3						オムニバス
		グローバルヘルスⅠ	1秋	2			○			1						
		グローバルヘルスⅡ	1秋	1			○			1						
		地球環境・衛生学	1秋	2			○			2					兼1	オムニバス（一部共同）
		小計（6科目）	－	7	0	3	－			10	0	0	0	0	兼1	
専門基礎科目		疫学Ⅰ	1秋	2			○			1					兼1	オムニバス
		統計学Ⅰ	1秋	2			○			1					兼1	共同
		研究倫理	1秋	1			○			1					兼1	共同
		小計（3科目）	－	5	0	0	－			2	0	0	0	0	兼3	
応用科目	基礎熱帯医学モジュール	病原微生物学Ⅰ	1春	1			○			2						オムニバス
		病原微生物学Ⅱ	1春	2			○			2						オムニバス
		病原微生物学Ⅲ	1春	2			○			3						オムニバス
		免疫学	1春	1			○			2						オムニバス
		バイオテクノロジー	1春	1			○			1						
		病理学	1春	1			○			1					兼2	オムニバス
		小計（6科目）	－	8	0	0	－			10		0	0	0	兼2	
	臨床熱帯医学モジュール	臨床熱帯医学（臓器別）	1初夏	2			○			6					兼1	オムニバス（一部共同）
		臨床熱帯医学（地域別）	1初夏	1			○			1						
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			6	0	0	0	0	兼1	
	疫学・統計学モジュール	疫学Ⅱ	1初夏	1			○			1					兼1	オムニバス
		統計学Ⅱ	1初夏	1			○			1						
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼1	
	地球環境・衛生学モジュール	衛生動物学	1初夏	2			○			2					兼4	オムニバス（一部共同）※実習
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			2	0	0	0	0	兼4	
	国際地域保健学モジュール	リプロダクティブ・ヘルス/ジェンダーⅠ	1冬		1		○			1	1		1			オムニバス
		小児保健Ⅰ	1冬		1		○			2						オムニバス
		地域保健Ⅰ	1冬		1		○			2						オムニバス
		小児保健Ⅱ	1春		1		○			2						オムニバス
		リプロダクティブ・ヘルス/ジェンダーⅡ	1春		1		○			1	1		1			オムニバス
		栄養	1初夏		1		○			1						
		地域保健Ⅱ	1春		1		○				1					
		緊急援助Ⅰ	1初夏		1		○			1						
		緊急援助Ⅱ	1春		1		○			1					兼1	オムニバス
		小計（9科目）	－	0	9	0	－			5	2	0	1	0	兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
応用科目	社会行動科学モジュール	ヘルス・プロモーションⅠ	1冬		1		○			1					兼2	オムニバス
		医療人類学Ⅰ（概論）	1冬		1		○				1					
		社会調査（量的）	1冬		1		○								兼1	
		社会調査（質的）	1冬		1		○			1						
		ヘルス・プロモーションⅡ	1春		1		○			1					兼2	オムニバス
		医療人類学Ⅱ（応用）	1春		1		○				1					
		人口学	1冬		1		○								兼1	
		国際保健研究への社会科学的アプローチ	1初夏		1		○			1					兼1	オムニバス（一部共同）※実習
		小計（8科目）	－	0	8	0	－			2	1	0	0	0	兼4	
	保健政策・マネージメントモジュール	医療経済	1初夏		1		○				1				兼1	オムニバス
		保健制度・政策Ⅰ	1冬		1		○			1						
		プロジェクト・プログラム管理Ⅰ	1初夏		1		○				1					
		援助論Ⅰ	1冬		1		○								兼1	
		保健財政	1初夏		1		○				1					
		開発と経済	1初夏		1		○								兼1	
		保健制度・政策Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		援助論Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		プロジェクト・プログラム管理Ⅱ	1初夏		1		○				1					※演習
		社会起業論	1初夏		1		○			2	2				兼1	オムニバス（一部共同）
		小計（10科目）	－	0	10	0	－			3	3	0	0	0	兼4	
研究及び指導	演習科目	グローバルヘルスセミナー	1春・初夏	2				○		8						オムニバス（一部共同）・集中
		グローバルヘルス演習Ⅰ	1通	1				○		26	4		1			
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			26	4	0	1	0		
合計（49科目）			－	30	27	3	－			26	4	0	1	0		

学位又は称号	修士（熱帯医学）	学位又は学科の分野	医学関係

（別添２－２）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（事　前　伺　い）

熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻　国際健康開発コース（修士課程）　既設

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目		基礎人間生物学	1秋		1		○			1						
		熱帯医学基礎Ⅰ	1秋	2			○			7						オムニバス
		熱帯医学基礎Ⅱ	1秋		2		○			3						オムニバス
		グローバルヘルスⅠ	1秋	2			○			1						
		グローバルヘルスⅡ	1秋	1			○			1						
		地球環境・衛生学	1秋	2			○			2					兼1	オムニバス（一部共同）
		小計（6科目）	－	7	3	0	－			10	0	0	0	0	兼1	
専門基礎科目		疫学Ⅰ	1秋	2			○			1					兼1	オムニバス
		統計学Ⅰ	1秋	2			○			1					兼1	共同
		研究倫理	1秋	1			○			1					兼1	共同
		小計（3科目）	－	5	0	0	－			2	0	0	0	0	兼3	
応用科目	基礎熱帯医学モジュール	病原微生物学Ⅰ	1春		1		○			2						オムニバス
		病原微生物学Ⅱ	1春		2		○			2						オムニバス
		病原微生物学Ⅲ	1春		2		○			3						オムニバス
		免疫学	1春		1		○			2						オムニバス
		バイオテクノロジー	1春		1		○			1						
		病理学	1春		1		○			1					兼2	オムニバス
		小計（6科目）	－	0	8	0	－			10		0	0	0	兼2	
	臨床熱帯医学モジュール	臨床熱帯医学（臓器別）	1初夏		2		○			6					兼1	オムニバス（一部共同）
		臨床熱帯医学（地域別）	1初夏		1		○			1						
		小計（2科目）	－	0	3	0	－			6	0	0	0	0	兼1	
	疫学・統計学モジュール	疫学Ⅱ	1初夏		1		○			1					兼1	オムニバス
		統計学Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		小計（2科目）	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	兼1	
	地球環境・衛生学モジュール	衛生動物学	1初夏		2		○			2					兼4	オムニバス（一部共同）※実習
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			2	0	0	0	0	兼4	
	国際地域保健学モジュール	リプロダクティブ・ヘルス/ジェンダーⅠ	1冬	1			○			1	1		1			オムニバス
		小児保健Ⅰ	1冬	1			○			2						オムニバス
		地域保健Ⅰ	1冬	1			○			2						オムニバス
		小児保健Ⅱ	1春	1			○			2						オムニバス
		リプロダクティブ・ヘルス/ジェンダーⅡ	1春		1		○			1	1		1			オムニバス
		栄養	1初夏		1		○			1						
		地域保健Ⅱ	1春		1		○				1					
		緊急援助Ⅰ	1初夏		1		○			1						
		緊急援助Ⅱ	1春		1		○			1					兼1	オムニバス
		小計（9科目）	－	4	5	0	－			5	2	0	1	0	兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
応用科目	社会行動科学モジュール	ヘルス・プロモーションⅠ	1冬	1			○			1					兼2	オムニバス
		医療人類学Ⅰ（概論）	1冬	1			○				1					
		社会調査（量的）	1冬		1		○								兼1	
		社会調査（質的）	1冬		1		○			1						
		ヘルス・プロモーションⅡ	1春		1		○			1					兼2	オムニバス
		医療人類学Ⅱ（応用）	1春		1		○				1					
		人口学	1冬		1		○								兼1	
		国際保健研究への社会科学的アプローチ	1初夏		1		○			1					兼1	オムニバス（一部共同）※実習
		小計（8科目）	－	2	6	0	－			2	1	0	0	0	兼4	
	保健政策・マネージメントモジュール	医療経済	1初夏	1			○				1				兼1	オムニバス
		保健制度・政策Ⅰ	1冬	1			○			1						
		プロジェクト・プログラム管理Ⅰ	1初夏	1			○				1					
		援助論Ⅰ	1冬		1		○								兼1	
		保健財政	1初夏		1		○				1					
		開発と経済	1初夏		1		○								兼1	
		保健制度・政策Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		援助論Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		プロジェクト・プログラム管理Ⅱ	1初夏		1		○				1					※演習
		社会起業論	1初夏		1		○			2	2				兼1	オムニバス（一部共同）
		小計（10科目）	－	3	7	0	－			3	3	0	0	0	兼4	
実習科目		短期フィールド研修	1春	1					○	1			1			
		長期海外研修	2秋	2					○	1						
		小計（2科目）	－	3	0	0	－			1	0	0	1	0		
研究及び指導	演習科目	グローバルヘルスセミナー	1春・初夏	2				○		8						オムニバス（一部共同）・集中
		グローバルヘルス演習Ⅰ	1通	1				○		26	4		1			
		グローバルヘルス演習Ⅱ	2通	1				○		26	4		1			
		小計（3科目）	－	4	0	0	－			26	4	0	1	0		
合計（52科目）			－	28	36	0	－			26	4	0	1	0		

学位又は称号	修士（公衆衛生学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）

（別添２－２）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（事　前　伺　い）

熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻　ヘルスイノベーションコース（修士課程）　既設

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目		基礎人間生物学	1秋		1		○			1						
		熱帯医学基礎Ⅰ	1秋	2			○			7						オムニバス
		熱帯医学基礎Ⅱ	1秋	2			○			3						オムニバス
		グローバルヘルスⅠ	1秋	2			○			1						
		グローバルヘルスⅡ	1秋	1			○			1						
		地球環境・衛生学	1秋	2			○			2					兼1	オムニバス（一部共同）
		小計（6科目）	－	9	1	0	－			10	0	0	0	0	兼1	
専門基礎科目		疫学Ⅰ	1秋	2			○			1					兼1	オムニバス
		統計学Ⅰ	1秋	2			○			1					兼1	共同
		研究倫理	1秋	1			○			1					兼1	共同
		小計（3科目）	－	5	0	0	－			2	0	0	0	0	兼3	
応用科目	基礎熱帯医学モジュール	病原微生物学Ⅰ	1春		1		○			2						オムニバス
		病原微生物学Ⅱ	1春		2		○			2						オムニバス
		病原微生物学Ⅲ	1春		2		○			3						オムニバス
		免疫学	1春		1		○			2						オムニバス
		バイオテクノロジー	1春		1		○			1						
		病理学	1春		1		○			1					兼2	オムニバス
		小計（6科目）	－	0	8	0	－			10		0	0	0	兼2	
	臨床熱帯医学モジュール	臨床熱帯医学（臓器別）	1初夏		2		○			6					兼1	オムニバス（一部共同）
		臨床熱帯医学（地域別）	1初夏		1		○			1						
		小計（2科目）	－	0	3	0	－			6	0	0	0	0	兼1	
	疫学・統計学モジュール	疫学Ⅱ	1初夏		1		○			1					兼1	オムニバス
		統計学Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		小計（2科目）	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	兼1	
	地球環境・衛生学モジュール	衛生動物学	1初夏		2		○			2					兼4	オムニバス（一部共同）※実習
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			2	0	0	0	0	兼4	
	国際地域保健学モジュール	リプロダクティブ・ヘルス/ジェンダーⅠ	1冬		1		○			1	1		1			オムニバス
		小児保健Ⅰ	1冬		1		○			2						オムニバス
		地域保健Ⅰ	1冬		1		○			2						オムニバス
		小児保健Ⅱ	1春		1		○			2						オムニバス
		リプロダクティブ・ヘルス/ジェンダーⅡ	1春		1		○			1	1		1			オムニバス
		栄養	1初夏		1		○			1						
		地域保健Ⅱ	1春		1		○				1					
		緊急援助Ⅰ	1初夏		1		○			1						
		緊急援助Ⅱ	1春		1		○			1					兼1	オムニバス
		小計（9科目）	－	0	9	0	－			5	2	0	1	0	兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
応用科目	社会行動科学モジュール	ヘルス・プロモーションⅠ	1冬		1		○			1					兼2	オムニバス
		医療人類学Ⅰ（概論）	1冬		1		○				1					
		社会調査（量的）	1冬		1		○								兼1	
		社会調査（質的）	1冬		1		○			1						
		ヘルス・プロモーションⅡ	1春		1		○			1					兼2	オムニバス
		医療人類学Ⅱ（応用）	1春		1		○				1					
		人口学	1冬		1		○								兼1	
		国際保健研究への社会科学的アプローチ	1初夏		1		○			1					兼1	オムニバス（一部共同）※実習
		小計（8科目）	－	0	8	0	－			2	1	0	0	0	兼4	
	保健政策・マネージメントモジュール	医療経済	1初夏		1		○				1				兼1	オムニバス
		保健制度・政策Ⅰ	1冬		1		○			1						
		プロジェクト・プログラム管理Ⅰ	1初夏		1		○				1					
		援助論Ⅰ	1冬		1		○								兼1	
		保健財政	1初夏		1		○				1					
		開発と経済	1初夏		1		○								兼1	
		保健制度・政策Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		援助論Ⅱ	1初夏		1		○			1						
		プロジェクト・プログラム管理Ⅱ	1初夏		1		○				1					※演習
		社会起業論	1初夏		1		○			2	2				兼1	オムニバス（一部共同）
		小計（10科目）	－	0	10	0	－			3	3	0	0	0	兼4	
実習科目		短期フィールド研修	1春		1				○	1			1			
		小計（1科目）	－	0	1	0	－			1	0	0	1	0		
演習科目及び研究指導		グローバルヘルスセミナー	1春・初夏	2				○		8						オムニバス（一部共同）・集中
		グローバルヘルス演習Ⅰ	1通	1				○		26	4		1			
		グローバルヘルス演習Ⅱ	2通	1				○		26	4		1			
		ヘルスイノベーションゼミⅠ	1通	2				○		5						
		ヘルスイノベーションゼミⅡ	2通	4				○		5						
		小計（5科目）	－	10	0	0	－			26	4	0	1	0		
合計（53科目）			－	24	44	0	－			26	4	0	1	0		
学位又は称号		修士（医科学）		学位又は学科の分野						医学関係・保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）						

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
福島県立医科大学大学院医学研究科

災害・被ばく医療科学共同専攻の事前伺いにおける意見対応について

H27.06.29

【要望意見】
コースの名称が「保健看護学」である一方で，学位の名称は「看護学」となっているが，両学問分野をどのように捉えて使い分けているのかを説明あるいは一方に統一することが望ましい。

（回答）

本専攻の保健看護学コースは，通常の看護学専攻と異なり，「臨床看護業務に精通するのみならず，災害時の緊急放射線被ばく医療や放射線健康リスクコミュニケーションに対応できる看護師・保健師の育成」を目的としている。そのため，学生の入り口として被ばく医療機関の看護師や原発立地県に勤務する保健師，さらにはこのような職種を目指す看護系大学卒の学生を想定している。したがって，コース名としては，単に「看護学コース」とするのではなく，「保健看護学コース」とするものである。

一方で，学位名については国内外での通用性を考慮して，修士（保健看護学）よりも修士（看護学）あるいは修士（保健学）が一般的であると考えられる。入り口として想定している保健師・看護師はいずれも看護師の資格を有していること，将来的に認定看護師の資格を取得しようとする看護師にとって，修士（看護学）の取得が望ましいと考えられること，さらには，修了後主に保健師として活動する学生にとっても，修士（看護学）の学位を得ることで特に不利益を被ることは考えにくいことから，授与する学位としては修士（看護学）とするものである。当然ながら，コースのカリキュラム策定及び指導に際して，修士（看護学）を授与するに相応しい履修の内容とすることに努めるものとする。